

科目名	成熟期・慢性看護学特論Ⅲ (Advanced Study on Chronic Nursing for Adults and Aged Ⅲ)			科目コード	M211
選択区分	選択	履修時期	1 後	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	島田 美鈴・藤田 佐和*・松井美由紀			関連DP	看①②③⑤⑥
授業概要	がん看護を深めるための土台としてのがん看護実践における考え方・知識・技術を教授し、学んだ専門的知識を用いて日々の看護実践・研究能力を養う。授業は担当者によるプレゼンテーションを中心に進める。				
授業目標	がんは今や闘病過程の長い慢性疾患として捉えられている。本科目ではがんを慢性疾患モデルで捉え、命のある限りがんと共存しながらその人らしく生き続けるがんサバイバーの理解と支援について探求する。がんサバイバーシップの考え方を理解した上で、がん患者や家族の理解および看護援助に活用できる諸理論や概念を学ぶ。そして、自己の看護体験を本科目で学んだ諸理論や概念で意味づけることによって今後の実践適用について探求する。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1～4	がん看護の基盤となる考え方	がん看護の基盤となる考え方として、がん看護コアカリキュラム、慢性疾患としてのがん：病みの奇跡とがん看護、がん患者のQOL、がん医療と看護倫理、がん患者とコミュニケーションを取り上げる	島田美鈴 藤田佐和
5	がん看護実践の基本概念	がんサバイバーやがんサバイバーシップの考え方とその背景について理解し、サバイバーシップの過程に応じた支援を探求する	島田美鈴
6～7	がん患者の喪失と危機	喪失および危機を用いた文献を詳読し、患者が遭遇する喪失や危機への理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、危機的状況にあるがん患者に対して、危機理論に基づく看護を探求する	
8～9	がん患者の不確かさ、ゆらぎ	不確かさ、ゆらぎを用いた文献を詳読し、患者の不確かさやゆらぎへの理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、不確かさやゆらぎの状況にあるがん患者に対する看護を探求する	
10～11	がん患者とセルフケア、症状マネジメント	セルフケア、症状マネジメントに関する文献を詳読し、がん患者のもつ力への理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、効果的なセルフケア支援、症状緩和、QOLの維持向上のための看護を探求する	
12～13	がん患者と意思決定	意思決定に関する文献を詳読し、がん患者の意思決定への理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、がんの告知や治療選択における意思決定を支える看護を探求する。	島田美鈴 松井美由紀
14～15	がん患者とリハビリテーション	がん患者のリハビリテーションに関する文献を詳読し、治療にともなう障がいを受けた患者の自己概念や障がい受容への理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、喪失・悲嘆過程にある患者のリハビリテーション看護を探求する	島田美鈴 藤田佐和
成績評価方法		課題レポート (70%)・プレゼンテーション (30%) の評価によって総合的に行う。	
必携あるいは参考図書・文献		参考図書 ①小島操子他日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員翻訳：がん看護コアカリキュラム、医学書院 ②鈴木志津枝・小松浩子監訳：がん看護PEPリソース、医学書院 ③その他、Oncology Nursing Forum、Cancer Nursing、日本がん看護学会誌より文献を紹介する。	
授業時間外の学習について		プレゼンテーションは全て自己学習が必要となる。所用時間に関しては、個人差あり。	
関連科目		108 疾病制御学特論、203 看護研究方法論、204 理論と看護実践、209 成熟期・慢性看護学特論Ⅰ、210 成熟期・慢性看護学特論Ⅱ、212 成熟期・慢性看護学演習	
備 考		項目の順序や内容の変更の可能性がある。	